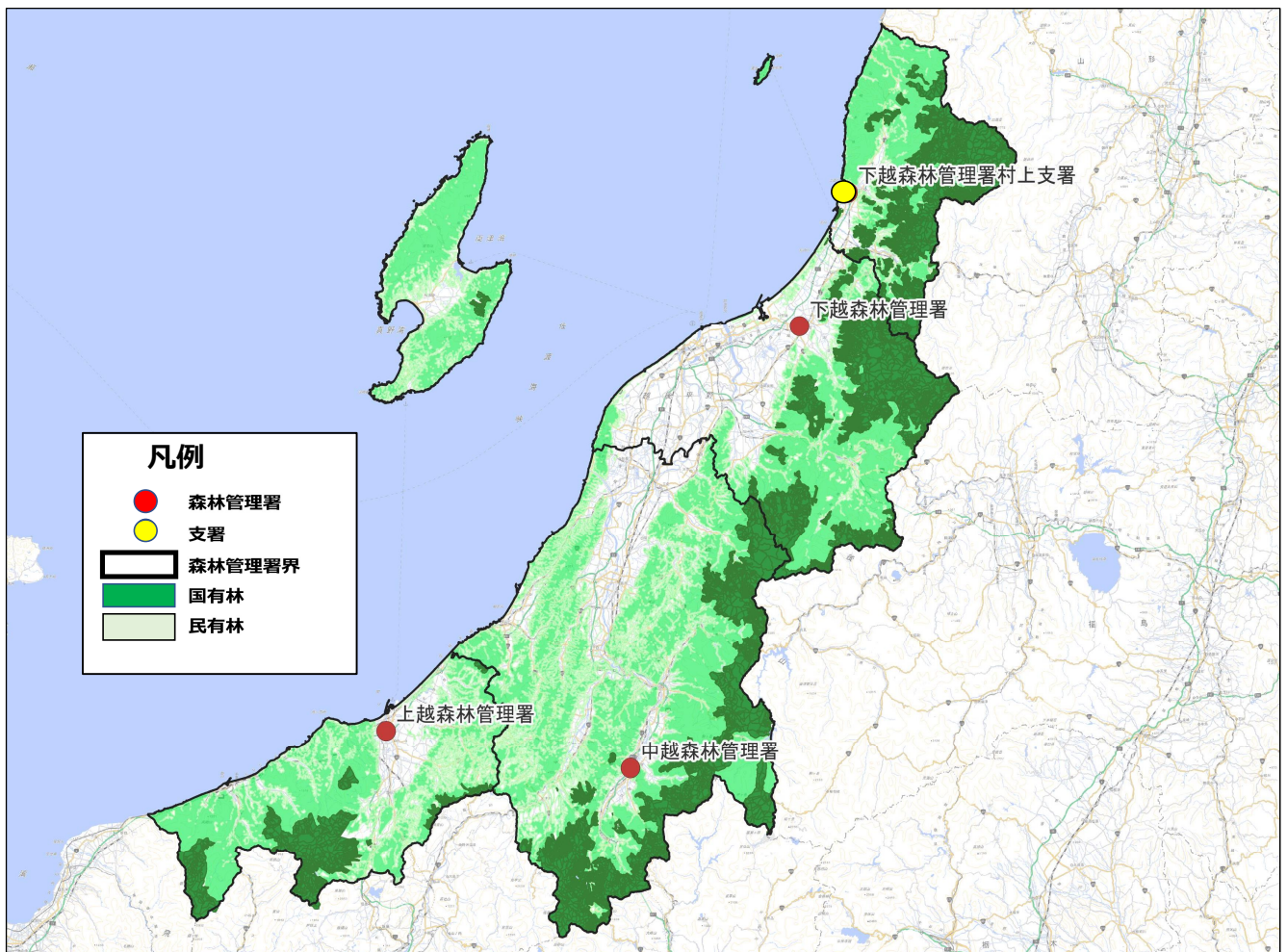


新潟県内の国有林について

令和8年度版

概要



- 新潟県の面積(126万ha)のうち約3分の2が森林(86万ha)で覆われ、その約3分の1に相当する約29万haの国有林を3つの森林管理署(上越、中越、下越)と1支署(村上)で管理しています。
- 国有林の多くが地形の急峻な奥地の山々や河川の源流域に分布していることから、大部分を保安林に指定し、水源を守り土砂災害を防ぐなど公益的機能の発揮を重視した管理経営に努めています。
- また、貴重な自然環境や美しい景観の維持のため、国有林の約7割(19万ha)が国立公園等に指定されており、保健休養・レクリエーションの場としても多くの皆様に利用されています。

省力・低コスト造林の取組

○各種現地検討会の開催

(各署共通の取組)

- 林業の低コスト化を目指して、伐採から搬出、植付けまで連続して行う一貫作業システムの導入や、選木労力軽減、安全作業を考慮できる列状間伐を推進します。また、下刈の省力化試験や高性能林業機械を活用した検討会等を開催し、普及・啓発に取り組みます。



高性能林業機械による効率化検討会

○花粉発生源対策

(各署共通の取組)

- 花粉の発生源となっているスギ人工林の伐採と、花粉の少ない苗木への植替えや樹種転換を進めます。また、下越森林管理署は、新潟県森林研究所と、無花粉スギの組織培養苗試験に係る覚書を締結し、フィールドを提供するとともに、調査に協力します。



組織培養苗の植付

民有林行政との連携

○民有林と国有林の情報共有と意見交換

(各署単位の取組)

- 民有林と国有林の情報共有と、より一層の連携を図る目的で、県内の各森林管理署単位で、県出先機関（地域振興局）、関係市町村と継続した打合せ会議を実施します。上越森林管理署では、現地視察を併せて実施しており、村上支署では、現地検討会等を県出先機関とタイアップし実施しています。



民有連携打合せ会議

病虫獣害への対策

○ニホンジカ被害に備える

(各署共通の取組)

- 新潟県内のニホンジカ生息状況や、被害状況など、新潟大学農学部、新潟県、県内各署等が連携し、推定生息数の推移や、センサーカメラ等による行動調査等の調査情報を共有するとともに意見交換を行っています。

また下越森林管理署では、猟友会支部と捕獲協力協定を締結し、将来に備えています。



ニホンジカ情報の意見交換

地域の人材育成に向けた取組

○未来への投資

(下越森林管理署)

- 新潟大学農学部と下越森林管理署では、連携連絡協定に基づき、大学側の研究及び教育活動と、管理署側の業務に助言をもらう目的により協定を締結しており、取組の一つとして、学生の実習場所として、国有林のフィールド提供等による人材育成を支援します。



新潟大学3年生の間伐調査実習

○森林教室

(中越森林管理署)

- 中越森林管理署では、南魚沼市内の小学校を対象に総合的な学習の一環として森林教室を定期的に行っています。学校林での林業体験や、木工教室などを通じて、森林の働きや役割、また林業に興味をもってもらえるような取組を引き続き実施します。



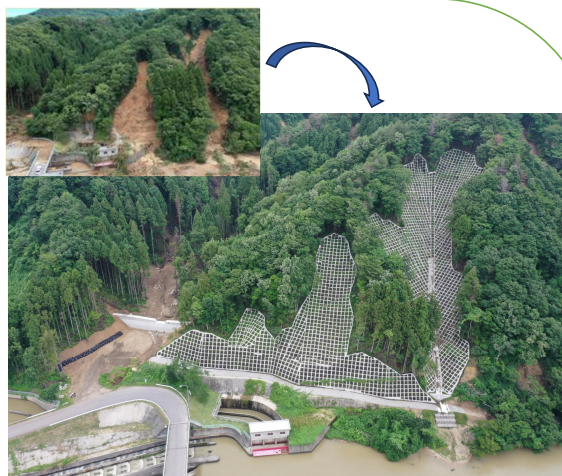
学校林内で林業体験

安心・安全の確保に向けた治山対策

○山地災害復旧事業

(下越森林管理署村上支署)

- 令和4年8月3日から4日にかけて、新潟県北部で記録的な豪雨となりました。この大雨により広い範囲で土砂災害が発生するなど、多大な被害が生じました。初期段階では、地元説明会やリエゾン派遣、治山事業による応急対策を実施しました。今後も国土交通省、新潟県、関係市村と連携調整を行い早期復旧に努めます。



災害関連治山対策施工状況

○新潟県中越大震災の復旧対策見学会

(上越・中越森林管理署)

- 令和7年10月20日(月)新潟県中越大震災から20余年、直轄事業終了から10年の節目となる年に、上越署・中越署合同で復旧対策見学会を開催しました。今後の大規模災害発生時における関係機関との対応業務の連携強化に繋げていきます。



現地での説明(貫地区)